

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(数学)／秋田
美代

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

学生に教員としての専門性の基盤となる資質や能力を確実に身に付けさせ、学生の算数・数学科担当教員としての高度でかつ実質的な指導力を高めることを念頭に置いて授業を展開する。そのために、次のような①授業内容、②授業方法、③成績評価を行う。

- ①授業内容においては、学生が「大学で学ぶ内容を学校現場における指導と結び付けて、指導者としての視点で解釈し直すことができる」ようになるとともに、「教員が児童生徒に対して適切な指導をするためには、相当高度な専門性や指導技術等が必要であると理解できる」ような内容を取り入れる。具体的には、小・中学校で指導する問題を例にあげて、学生は分かっているつもりでいるが、児童生徒に算数・数学を理解させることができるような分かり方をしていないという点を浮き上がらせる内容を授業に取り入れて、小・中学校で指導する算数・数学についての学問的背景と指導内容、指導方法、及びそれらと児童生徒の理解との関係等について一層理解を深めることの重要性・必要性を感じさせることができるようにする。
- ②授業方法においては、「学生が教育としての資質や能力を自分自身で高めることができるようにする」ための方法を取り入れる。具体的には、学生が教員になるために自分に不足している点や自己の教員としての資質能力を向上させることの必要性を感じることでできる課題、及び大学の授業で学んでいる内容をどのように活用できるか、また、しなければならないかについて考えることができるような課題を与え、解決策を学生自身に考えさせたり、考えた解決策を学生同士で討論させたりする。
- ③成績評価については、シラバスに基づき、成績評価基準を学生に説明し、公平性、透明性を持たせる。その際に、学生が、成績評価は教員としての資質能力の向上や自己の改善のために役立てることが大切であることを理解できるようにする。また、学生の質保証のためにも成績評価は厳格に実施する。

2. 点検・評価

学生に教員としての専門性や資質・能力を確実に身に付けさせ、算数・数学科担当教員としての高度でかつ実質的な指導力を高めることを念頭に置き、授業においては年度目標に記述した①から③の計画を実行した。

- ①授業内容においては、小学校算数・中学校数学の教科書の題材をもとに、その数学的背景をどうとらえるかを学生に考えさせて、学生が「大学で学ぶ内容をと学校現場における指導の繋がりをとらえさせるようにした。また、数学的背景を考えることを通して、教員の専門性・指導技術の重要性が理解できるようにした。
- ②授業方法においては、「授業中あるいは授業後に、今日の授業内容が教員としての資質や能力とどのように繋がっているかを討論させて発表させたり、まとめを記述させたりして、現在の自分に不足している点や自己の教員としての資質能力を向上させることの必要性を考えさせた。
- ③成績評価については、シラバスに基づき、成績評価基準を学生に説明して、公平性、透明性を持たせるようにした。また、評価は何のために行うかを学生に考えさせ、自己の資質能力の向上や自己の改善のために役立てることの重要であることを学生が意識できるようにした。
- これら以外に、コースで学長裁量経費に応募し、学生が各授業で身に付けた資質・能力を算数・数学科担当教員としての教育実践力として統合できる場を設定し、コースに所属する全教員がサポートした。このプロジェクトにおいて、学生は授業で獲得した知識を基に自ら教材を開発するなどして、学校現場やコースで企画する算数教室等で実践し、その結果を学会等で発表した。プロジェクトを通して学生は各授業で学んだ知識を統合させ、算数・数学教員としての専門性や資質・能力、授業についての研究力を一層向上させることができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 学生の自主的な学習活動を促すために、授業に学生同士の討論・探求的学習等を取り入れる。
- ② 授業期間の途中で授業の理解状況に係わるアンケート・テスト等を実施し、授業の内容・方法の改善を図る。
- ③ 学生の進路、悩み等の相談に随時応じる。

2. 点検・評価

- ①については、学生の自主的な学習活動を促すために、授業で学生に「児童・生徒の理解を促進する要素はなにか」、「算数・数学の学習内容を理解するとはどういうことか」等をテーマに考えさせるなどした。その結果、学生同士で活発に討論等を行った。
 - ②については、授業後に学生に授業の内容から何を学んだかを記述させるなどして、学生の理解状況を確認した。学生の理解状況を基に、授業の内容・方法の改善を図るとともに、各学生が教員として成長するために必要だと思われることをこちらからも意見として投げかけ、学生自身が自分の理解度を意識するような場面を設定した。
 - ③については、学生の相談にはできるだけその時に応じ、時間が取れないときは後で時間を設定して対応した。
- ①、②、③以外に、次のことを行った。
- ・折りを見て大学院の授業やゼミで、学生に研究を深めて研究成果を学会・研究大会で口頭発表等をすることの重要性について話をした(コースの6名の学生が学会での口頭発表をおこなった)。
 - ・希望する学生に対して就職試験・採用試験対策として、「模擬授業」、「面接」の指導・助言(5月中旬～8月下旬、週1～5人程度)を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 「創造性の育成」、「算数・数学科担当教員の授業実践力向上」等に関する研究内容をまとめ、学会発表をするとともに学会誌に投稿する。
- ② 学内外の研究助成の公募に積極的に申請する。
- ③ 現職の算数・数学科担当教員の協力を得て、教育実践としての研究を行う。

2. 点検・評価

- ①については、「創造性の育成」、「算数・数学科担当教員の授業実践力向上」等に関する研究内容をまとめ、国際会議・国内学会等で研究発表(8件)を行った。数学教育学会へ投稿した論文が採択された。
 - ②については、研究代表者・研究分担者として平成25年度科学研究費補助金を獲得した。また、コースで平成25年度学長裁量経費(プロジェクト経費)に申請し、獲得した。
 - ③については、福岡県、大阪市等の現職の算数・数学科担当教員の協力を得て、教育実践としての研究を行った。
- ①、②、③以外に「数学科における国際教育協力」に関する研究を行い、これについても研究内容をまとめ、1件の研究発表を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

① 担当する委員会の委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

①については、担当する「学校教育学部教務委員会委員」として、本学の運営に貢献した。また、セクシャル・ハラスメント等の防止等に関する規程に基づく相談員を務めた。

①以外に、「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」事業にかかる「評価基準・評価方法開発協議会」の責任者を務めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

①附属小・中学校の算数・数学担当教員とメールや電話で連絡を取り合い、研究活動、児童・生徒及び大学生・大学院生に対する指導等について意見交換・相互協力をする。(附属学校)

② 講座で開講する「算数おもしろ教室」等に参加し、児童・保護者に算数・数学の楽しさや不思議さを伝えること等を通じて社会との交流・連携を深め、社会に貢献する。(社会連携)

③ JICA等の国際協力事業に貢献する。(国際交流)

2. 点検・評価

①については、附属小・中学校の算数・数学担当教員と大学や小・中学校での話し合い、メール、電話等で、研究活動、児童・生徒及び大学生・大学院生に対する指導等について意見交換・相互協力を行った。

②については、徳島県教育会が開催する「わくわく算数教室」の講師を務める等により社会との交流・連携を深めた。

③については、JICAの委託事業である平成25年度地域別研修の指導教員を担当する等により国際協力事業に貢献した。

①, ②, ③以外に学校現場の教員研究会での指導助言, 科学研究費補助金によるラオス人民民主共和国の理数科教育への国際教育協力を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学長の定める重点目標である「教員養成大学教員としての授業実践」及び、分野別「教育・学生生活支援」、「研究」、「大学運営」、「附属学校・社会との連携、国際交流等」のいずれの項目も目標・計画は確実に実行できた。また、当初の目標・計画に付け加えて実行できたことも多かった。したがって、平成25年度の総合的貢献度は大きかったと判断する。